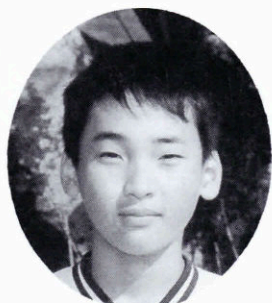


シリーズ ふるさとへの想い ④



伝統ある鯨唄を永遠に

川尻小学校六年 山本 達郎



「しめて。」
さあ、鯨唄が始まりました。
ぼくは、太鼓をたたく役です。少しでもリズムがくると、唄もおかしくなってしまうので、練習する時でも、本番のようにやっています。でも、練習の一回一回がとても楽しいので、しんちょう、かつ、リラックスしながら、練習をしています。終わる所は、唄と必ず同時に終わらないといけないので、とてもむずかしいです。

去年は唄を唄っていました。何度も何度も唄っていたので、この鯨唄の歌詞もわかってきました。およそ、三百年もの歴史をもつこの唄は、捕鯨が禁止された今でも、川尻の貴重な財産として、親しまれています。唄の終わりにある「ハー、ヨカ、ホイ」という歌詞は、とてもよい宝という意味だという事です。また、鯨がとれてとてもうれしいけど、鯨がかわいそうだということを表すため、手をすの合わせながら唄うのです。ぼくが、今までで、一番心に残ったのは運動会での鯨唄で、太鼓をたたいた日の事です。九月二十九日の運動会は、とてもいい日でした。山根君の、
「しめて。」
という声が聞こえました。すかさず、ぼくは「ドン、ドン、ドンドンドンドンドン。」とたたきました。
「祝ぐえ、イエーヤ〜イエーエ。めでたくの。」
みんながそう唄った後、すかさず、太鼓をたたきました。その時、自分のたたいた太鼓の音

に、一瞬だけ、鯨の声が聞こえた気がしました。そして、みんなの大きな唄声の中に、鯨を捕る時の大きなかけ声が聞こえたような気がしました。また、鯨の苦しみと、人々の喜びの音が聞こえてきたような気もしました。すると、
「ドンドンドンドン。」
とたたき、「はじめ唄」が終わりました。
ぼくは、「さっきのは何だったんだろう。たぶん、ぼくの聞きがちがったんだろう」と思いました。そう思っていると、山根君が「しめて。」
と言ったので、すかさず、ぼくはまた、「ドン。ドン。ドンドンドンドン。」とたたきました。力強く、正確にたたいていると、今度はぼくの頭の中で鯨と人が戦っている所がうかんできました。大勢の人達が、笑顔でむかえている所もうかんできました。その後、「ドンドンドンドン。」
とたたいて終わりました。
退場する時、「さっきのは何だったんだろう。」
と思い続けていました。とても不思議でした。閉会式の時、自治会長さんが、
「ばんざーい。」
と言った時、その声が「鯨がとれてうれしい。」と喜んでいようでした。
帰っても、この事が頭からはなれません。でも、寝る時に分かりました。それは・・・
太鼓をたたく人の気持ちは、三百年前でも、今でも変わっていないということ。ぼくが、鯨唄を好きな気持ちも、とても強いこと。
ぼくは、この鯨唄を、川尻小学校の人も、川尻地区の人も、みんなが大事にして、永遠に受け継いでいってほしいと願っています。